

韓国語の使役移動動詞とその日本語訳に見られる 語彙化のパターンと多義性

金 祉 護

キーワード:多義語、身体性、プロトタイプ、使役移動動詞、語彙化のパターン

要旨

本研究は韓国語の使役移動動詞とその日本語訳(112語×2)の語彙化のパターンと意味層を比べ、プロトタイプ調査の必要な語や語群の検討を行なった。語彙化のパターンは田中・松本(1997)の分類による。意味層は語の持つ意味の身体性と抽象性で判断した。112ペアは語彙化のパターンも、意味層も同一な場合が多かったが、使役移動の経路位置関係を語彙化した場合において意味層に違いが見られた。

1. はじめに

言葉は程度の差こそあれ多義である場合が多い。日本語も例外ではないが、松田(2000)は、日本語学習者の多義語習得に関して、時間を要するものだと指摘し、その原因の一つとして母語の影響を挙げている。

母語のどの側面が第二言語の多義語習得に関わってくるかを考察した研究にはKellerman(1979)がある。彼はオランダ人英語学習者に、オランダ語の多義動詞brekenの意味の中でどれが英語多義動詞breakに翻訳可能か、を尋ねている。学習者がbrekenの意味それぞれに思う典型度と翻訳許容度には正の相関が見られた。

学習者の思う母語の典型的な意味(=プロトタイプ)が、第二言語の多義語習得に影響することが示唆されたわけであるが、どのような意味を学習者がプロトタイプと捉えるかに関してはまだ議論が必要である。よく挙げられる要因は、その語の持つ意味の観察可能性やイメージの具体性、頻度である。しかし、具体性要因のみでは一貫した説明が難しいとして使用頻度によるものとする場合が多い。

認知メタファー理論では、具体事象を表す言葉が抽象的な概念も表すことができる理由として身体性基盤論(Lakoff&Johnson1999;鍋島2011)を挙げている。抽象的な概念が、人間の身体経験と共起関係や類似関係にあったためであるとの主張である。

正確には認知メタファー理論で扱っているのは概念単位、総体的な意味単位であるが、実際それは一つの語が複数の意味を持つメカニズムの説明でもある。具体性が人間の視覚経験を重視した概念だとすると、身体性は人間の経験を網羅的に捉えたものと考えられる。幼児の母語習得や近年報告されている脳神経実験などを見ても、経験、つまり身体性の基盤としての役割は首肯できるところがある。語の持つ複数の意味の間でも、それぞれの表している事象の具体性、身体性の程度が要因となって、人の思う典型度に差が生じることが考えられる。

筆者は金(2012)で、韓国人日本語学習者と日本語母語話者の多義動詞のプロトタイプと意味範囲を考察し、訳語同士の具体性や身体性の違いが、習得に負の影響を及ぼす可能性があることを指摘した。プロトタイプを連想喚起力の違い(産出された文の産出順番で判断)という観点から調べたところ、「避ける(さける)」の韓国人日本語学習者のプロトタイプは「車や雨をさける」のような第一産出文から推測されるように、具体的である。学習者はどちらかというところ「よける」に近い意味をプロトタイプとして持っていた。一方、日本語母語話者のプロトタイプは「危険や災害をさける」のような第一産出文から推測されるように、抽象的である。さらに、学習者は習熟度が高くなっても誤用文である「身を避ける(さける)」のような用例を正用と判断していた。韓国語の対訳語の身体性が日本語のそれより高かったことが原因である、と考えられる。

本研究は、その結果を踏まえ、人間の使役動作を語彙化している代表的な例である使役移動動詞を取り上げ、韓国語と日本語訳の間で身体性の違いの問題がどのくらい、どのような形で現れるかを検討することを目的とする。一連の考察を通して、学習者のプロトタイプと習得過程を見る必要がある語や語群の検討が可能である、と考える。

2. 研究の背景

2-1. 身体性、具体性

本節では、本研究における身体性や具体性に関して述べる。鍋島(2008)は身体性を以下のように定義している。

[……]言語、概念、文法、推論、意思決定などを高次の認知機能とし、感覚、知覚、運動などを低次の認知機能とする。感覚・知覚は、視覚、聴覚、体性感覚といった

身体に分散された感覚器官から生じ、運動は、身体のあらゆる部分の肉体で生じる。よって、身体性(embodiment)とは、後者の特徴である。また、前者が後者によって規定されているという考え方を意味する場合もある。(鍋島2008、p. 48)

本研究においては鍋島(2008)を参考に、身体性を「低次認知機構、つまり、感覚・知覚・運動による経験」と定義する。身体性が、高次の認知機能が低次の認知機能によって規定される、という考え方を意味する場合もあるが、本研究における定義はその意味は含まない。本研究では語の意味が、経験と見られる事象を表す場合、その意味には身体性があると考ええる。イメージの具体性、観察可能性は主に知覚と関連する経験と関係するため、具体性は身体性の一部と捉える。

本研究は多義語の持つ意味を身体性という観点から分類する。身体性のある意味を「具体的な意味」、身体性がなく抽象化された意味を「抽象的な意味」と分類する。その詳細に関しては3-2で改めて述べる。

2-2. 移動動詞

本研究では身体性を語彙化した代表例と考えられる移動動詞、その中でも使役移動動詞を考察対象とする。以下、田中・松本(1997)を参考に移動動詞、使役移動動詞に関して述べていく。

田中・松本(1997)によると、移動とは時間の経過に伴う物体の位置の変化であり、その移動を規定する必須要素として「移動物」、「移動の経路」、「移動の継続時間」の3要素がある。そのほか、移動に付随して起こるいくつかの出来事として「様態」「付帯状況」「付帯変化」「原因」がある。「様態」とは移動に伴う手足の動き、速度、手段(乗り物など)のように移動と直接関わる付随的要素であり、「付帯状況」とは歌いながら歩く場合の「歌う」のような、移動からは独立した出来事である。一方、「付帯変化」とは移動に伴って状態変化が起こる場合であり、「原因」とは移動を生ぜしめる外的要因である。以上の諸要素をまとめたのが図1である。「移動の継続時間」は書かれていないが、常に含意されるものと考えられる。

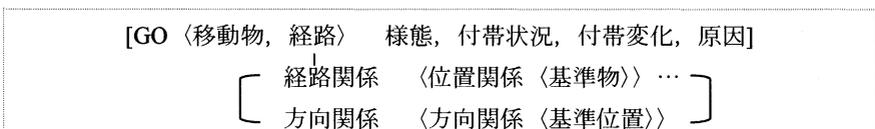


図1 移動の諸要素 (田中・松本 1997、p.129)

世界の諸言語は、言語によってこのような移動の諸要素を文のどの要素によって表現するかが異なる (Talmy2000a; Talmy2000b; 田中・松本1997)。田中・松本(1997)によると、中心的な違いは文の中核(主要部)である動詞にどの要素を取り込むかである。移動動詞は移動の事実を表現するが、そのほかに様態や経路位置関係などを同時に表現することが多い。日本語と韓国語は双方とも移動事象を描く際に経路の意味要素を動詞で表現する場合は多い言語と分類される(宣2012)。

田中・松本(1997)はさらに使役の事実とそれによる移動を描く動詞を使役移動動詞とし、その下位分類として「経路位置関係の包入」「使役の手段の包入」「移動の様態の包入」「移動の付帯変化の包入」を挙げている。「経路位置関係の包入」は、「上げる」「下げる」など、使役による移動物の経路や位置関係が語の意味に含まれて(語彙化されて)いるもの、「使役の手段の包入」は、「投げる」「蹴る」など、使役者の行為が移動を引き起こすことが語彙化されたもの、「移動の様態の包入」は、「飛ばす」「転がす」など、移動するものの移動様態が語彙化されたもの、「移動の付帯変化の包入」は、「取る」「除く」など、動作主の行為と移動が同時に起こるが、移動物の空間移動より状態変化が重要な場合である。

3. 研究の方法

3-1. 韓国語の使役移動動詞とその日本語訳の調査

考察の対象とする韓国語の使役移動動詞と日本語の対訳語については次のような手順で選んだ。①使用頻度の高い韓国語の移動動詞の意味構造を考察しているNam(2003)にある使役移動動詞84語を取り上げ、その類義語を韓国語のシソーラスを提供しているサイト『WORDNET』から抽出した。その中から複合語、漢語、使役移動動詞ではない動詞を除外した。②残った韓国語の日本語訳を『NAVER』、『DAUM』の『韓日辞書』で調べ、③さらに同サイトで逆にその日本語から韓国語訳を調べた。③の日本語の韓国語訳が『NAVER』、『DAUM』で共通し、①の韓国語と一致する場合、当該語の日本語訳として採択した。韓国語1語に複数の訳語が残った場合は該当する韓国語の意味を最も多く持っている日本語を残した。

韓国語の「두다du-da」を例として②からの一連の過程を示す。韓国語の「두다du-da」の対訳語として『DAUM』では「置く」「しまう」「指す」「打つ」などの語が、『NAVER』では「置く」「設ける」「指す」「打つ」などの語が検索された。次に、それらの日本語を入力し得られる韓国語を確認したところ「두다du-da」が出る場合は「置く」

「指す」「打つ」であった。最後に、「置く」「指す」「打つ」の意味を考察し、「두다du-da」と意味の対応関係がもっとも多い「置く」を「두다du-da」の対訳語と判断した。

以上のような方法で考察対象とする韓国語の使役移動動詞112語、その日本語の対訳語112語を得た。

3-2. 動詞の分類

韓国語112語とその日本語訳112語を二つの基準から分類した。一つは語彙化のパターン、もう一つは身体性という基準である。二つの分類を合わせて考察することで、意味的な違いを反映しつつ、身体性の違いの問題を把握することができると思う。

語彙化のパターンは、2-2で挙げた田中・松本(1997)を参考に「経路位置関係の包入」(以下「経路位置」)「使役手段の包入」(以下「手段」)「移動の様態の包入」(以下「様態」)「移動の付帯変化の包入」(以下「付帯変化」)の四つに分類した。田中・松本(1997)の定義を踏まえそれぞれの語彙化パターンの主な特徴を捉えられる分類基準を表1のように設け、分類していった。分類基準作成の際には何(2010)を参考にした。なお、日本語訳は必ずしも移動動詞ではない場合も想定されたため「その他」という分類項目を加えた。

一方、身体性を基準とした意味の分類では「具体抽象」「具体」「抽象」という分類項目を設けた。語の意味するところが具体的な身体動作である場合、身体性があると判断し、それを「具体」と分類した。一方、具体的な身体動作が思い浮かべられても、その動作を直接意味するものではない場合は「抽象」と分類した。一つの語が「具体」「抽象」の両方を持っている場合は「具体抽象」と分類した。以下身体性を基準とした意味の分類に関しては、「意味層」の分類と称する。

韓国語の意味は『NAVER国語辞典』、日本語の意味は『明鏡国語辞典』によるもので、辞書の意味とその用例を参考にした。判断が難しい場合、一緒に使われる共起語が具体的であれば「具体」に、抽象的であれば「抽象」に分類した。例えば、「入れる」の場合、「外にあるものを一定の枠の中へ(すっぽりと)移す」という意味(例:コップに水を入れる)は「具体」に、「仕事などに能力や情熱などを注ぎ込む」という意味(例:練習に気合を入れる)は「抽象」に分類した。後者の場合も何かの動作を描くことはできると思うが前者に比べてその具体性が劣る面があり、「気合」「活」など抽象的な意味を持つ語との共起が主であるからである。なお、「上げる」における「ある物を低い所

から高い所に移す」という意味(例:荷物を荷台に上げる)、「やる」を上品に言う意味(例:君にこの本を上げるよ)は両方身体動作が思い浮かび、共起語からも具体性が確認できたため、両方「具体」と分類した。

表1 語彙化パターン判断の基準

1. 使役移動動詞の判断

- 1) 意味から動作主による使役物の移動がイメージできるか。
- 2) 「～ている」と共起して、繰り返しや継続の意味を表すか。

2. 「経路位置」の判断

に／へ／から／まで／を(通過点と共起する)などの助詞と共起するか。省略してもそのような関係が見られるか。

3. 「手段」の判断

動詞+動詞の合成動詞(複合動詞やテ形接続)において、「経路位置関係」との共起が見られるか。

4. 「様態」の判断

移動様態を意味する自動詞と対応関係が見られるか。

5. 「付帯変化」の判断

- 1) 名詞修飾型(～たN)において、付帯変化の残存の意味が見られるか。
- 2) 「きれいに」「一杯」「広く」のように意味的に付帯変化にかかると見られる副詞との共起が見られるか。

4. 結果と考察

4-1. 分類の結果

まず、韓国語とその日本語の対訳語の語彙化のパターンの分類結果を表2に示す。韓国語も日本語も語彙化のパターンにおいては「付帯変化」に入るものが最も多い。

その次に「経路位置」、「手段」が続き、韓国語も日本語も「様態」に属するものが最も少ない。訳語同士の語彙化パターンは一致している場合が多い(太枠の内側)。しかし、11ペアには相違が見られる(太枠の外側)。

次に、語彙化のパターンに意味層の分布を合わせて表3に示す。語彙化のパターンも、意味層も同一なものは「経路位置」に18対、「手段」に10対、「様態」に2対、「付帯変化」に53対ある。どちらの語彙化のパターンにおいても、「具体抽象」に分類される場合が多い。語彙化のパターンは同一であるが意味層が異なるものには「経路位置」に3

対、「手段」に1対、「様態」に1対、「付帯変化」に13対ある。

表2 語彙化のパターンの度数分布 ()内は%

		韓 国 語					合計
		経路位置	手段	様態	付帯変化	その他	
日 本 語	経路位置	21 (18.7)			1 (0.9)		22 (19.6)
	手段	1 (0.9)	11 (9.8)		2 (1.8)		14 (12.5)
	様態		1 (0.9)	3 (2.7)			4 (3.6)
	付帯変化		1 (0.9)		66 (58.9)		67 (59.8)
	その他	4 (3.6)			1 (0.9)		5 (4.5)
合計		26 (23.2)	13 (11.6)	3 (2.7)	70 (62.5)	0 (0.0)	112

表3 語彙化のパターン別意味層の分布

韓 日		P1			P2			P3			P4			P5			合計
		CA	C	A	CA	C	A	CA	C	A	CA	C	A	CA	C	A	
P 1	CA	18	1								1						20
	C	2															2
	A																0
P 2	CA				9	1					2						12
	C	1				1											2
	A																0
P 3	CA				1			2	1								4
	C																0
	A																0
P 4	CA				1						48	5					54
	C										8	5					13
	A																0
P 5	CA										1						1
	C																0
	A	4															4
合計		25	1	0	11	2	0	2	1	0	60	10	0	0	0	0	112

P1 経路位置、P2 手段、P3 様態、P4 付帯変化、P5 その他、CA 具体抽象、C 具体、A 抽象

意味層の違いは一方の言語は「具体抽象」で、他方の言語は「具体」で対応する場合である。語彙化のパターンが異なる11対においては、6対は同一で、5対に相違が見られる。その相違は、韓国語では「経路位置」「具体抽象」のものが、日本語では4対が「その他」「抽象」に、1対が「手段」「具体」に分類される。

4-2. 分類の詳細

表4から6までに語彙化のパターンが同一な場合をパターン別に示す。意味層はそれぞれの語の左側に記号で記す。「具体抽象」には◎を、「具体」には「●」を、「抽象」には「○」を付した。なお、両言語間で意味層が異なる場合は該当セルに網かけを施した。韓国語の読みは『옛센스[ESSENSE]韓日辞典』による。

表4 「経路位置」

no	韓国語	日本語訳	no	韓国語	日本語訳
1	◎올리다 ol-li-da	◎上げる	12	◎빠뜨리다 bba ^ˆ -ddeu-ri-da	◎落とす
2	◎주다 ju-da	◎与える	13	◎내리다 nae-ri-da	●下ろす
3	◎넣다 neo ^ˆ ta	◎入れる	14	◎사다 sa-da	◎買う
4	◎들이다 deuri-da	◎入れる	15	◎바치다 ba-chi-da	◎捧げる
5	◎받다 bad-dda	◎受ける	16	◎드리다 deu-ri-da	●差し上げる
6	◎팔다 pal-da	◎売る	17	◎버리다 beo-ri-da	◎捨てる
7	◎얻다 eo ^ˆ d-dda	◎得る	18	◎내다 nae ^ˆ da	◎出す
8	◎놓다 nota	◎置く	19	◎돌리다 dol-li-da	◎回す
9	◎보내다 bo-nae-da	◎送る	20	●비키다 bi-ki-da	◎よける
10	◎부치다 bu-chi-da	◎送る	21	◎건네다 geo ^ˆ n-ne-da	◎渡す
11	◎떨어뜨리다 ddeoreo-ddeu-ri-da	◎落とす			

表5 「様態」

韓国語	日本語訳	韓国語	日本語訳	韓国語	日本語訳
●달리다 dal-li-da	◎駆る	◎날리다 nal-li-da	◎飛ばす	◎흘리다 heul-li-da	◎流す

表6 「付帯変化」

no	韓国語	日本語訳	no	韓国語	日本語訳
1	◎비우다 bi-u-da	◎空ける	34	●담그다 dam-geu-da	●漬ける
2	◎말다 mad-dda	◎預かる	35	◎붙이다 buchi-da	◎付ける
3	◎말기다 mad-ggi-da	◎預ける	36	●묻히다 muchi-da	◎付ける
4	◎모으다 mo-eu-da	◎集める	37	◎싸다 ssa-da	◎包む
5	◎대다 dae`-da	◎当てる	38	◎쌓다 ssa`ta	◎積む
6	◎엮다 yeog-dda	◎編む	39	●갓다 ja`d-dda	◎紡ぐ
7	◎합치다 hab-chi-da	◎合わせる	40	◎닫다 dad-dda	◎閉じる
8	◎심다 si`m-dda	◎植える	41	◎달다 dal-da	◎取り付ける
9	◎묻다 mud-dda	●うずめる	42	◎없애다 eo`bssae-da	◎無くす
10	◎덮다 deob-dda	◎覆う	43	◎빼다 bbae`-da	◎抜く
11	◎거두다 geo-du-da	◎収める	44	◎뽑다 bbob-dda	◎抜く
12	◎띠다 ddi-da	◎帯びる	45	◎벗다 beod-dda	●脱ぐ
13	●갈다 gal-da	●替える	46	●바르다 ba-reu-da	●塗る
14	◎감추다 gam-chu-da	◎隠す	47	◎싣다 si`d-dda	●載せる
15	◎숨기다 sum-gi-da	◎隠す	48	◎없다 eon-dda	●載せる
16	◎걸다 geo`l-da	◎かける	49	◎늘이다 neuri-da	◎伸ばす
17	●겹치다 gyeob-chi-da	◎重ねる	50	◎끼우다 ggi-u-da	◎挟む
18	●포개다 po-gae-da	◎重ねる	51	◎떨다 ddeo`l-da	◎はたく
19	◎치우다 chi-u-da	◎片付ける	52	◎떼다 dde`-da	◎離す
20	◎씩우다 sseui-u-da	◎被せる	53	●치다 chi-da	◎張る
21	◎쓰다 sseu-da	◎被る	54	◎걸치다 geo`l-chi-da	◎ひっかける
22	◎새기다 sae-gi-da	◎刻む	55	◎열다 yeo`l-da	◎開く
23	◎입히다 ip-hi-da	◎着せる	56	◎퍼다 pyeo-da	◎広げる
24	◎입다 ib-dda	◎着る	57	◎파다 pa-da	●掘る
25	●지피다 ji-pi-da	●くべる	58	●감다 gam-dda	●巻く
26	◎보태다 bo-tae-da	◎加える	59	◎걸다 geod-dda	●捲る
27	◎지우다 ji-u-da	◎消す	60	◎섞다 seog-dda	◎混ぜる
28	◎찌르다 jji-reu-da	◎刺す	61	◎채우다 chae-u-da	◎満たす
29	◎꽂다 ggod-dda	●挿す	62	◎벗기다 beod-ggi-da	●むく
30	◎갈다 ggal-da	◎敷く	63	◎매다 mae`-da	◎結ぶ
31	◎묶다 mug-dda	◎縛る	64	◎맺다 maed-dda	◎結ぶ
32	◎세우다 se-u-da	◎立てる	65	◎두르다 du-reu-da	◎巡らす
33	◎잡다 jab-dda	◎つかむ	66	◎가지다 ga-ji-da	◎持つ

表7 「手段」

no	韓国語	日本語訳	no	韓国語	日本語訳
1	◎움직이다 um-jigi-da	◎動かす	7	●뜨다 ddeu-da	●掬う
2	◎치다 chi-da	◎打つ	8	◎던지다 deon-ji-da	◎投げる
3	◎옮기다 om-gi-da	◎移す	9	●나르다 na-reu-da	◎運ぶ
4	◎쫓다 jjod-dda	◎追う	10	◎당기다 dang-gi-da	◎引く
5	◎밀다 mi'l-da	◎押す	11	◎끌다 ggeu'l-da	◎引く
6	◎차다 cha-da	◎蹴る			

次に語彙化のパターンに相違が見られたペアを表8に示す。横軸を韓国語、縦軸を日本語にし、クロスするセルに対応するペアを記す。

表8 語彙化のパターンが異なる場合

日\韓	経路位置	手段	付帯変化
経路位置			◎두다 du-da-◎置く
手段	◎넘기다 neom-gi-da - ●めくる		◎박다 bag-dda-◎打つ ◎찍다 jjig-dda-◎押す
様態		◎몰다 mo'l-da -◎驅る	
付帯変化		◎털다 teo'l-da -◎はたく	
その他	◎퍼뜨리다 peo'ddeu-ri-da -◎言いふらす ◎돌우다 dodu-da -◎そそる ◎높이다 nopi-da -◎高める ◎전하다 jeon-ha-da -◎伝える		◎바꾸다 ba-ggu-da -◎変える

韓国語は「経路位置」であるが、日本語は「その他」に属する4対は意味層の違い、つまり身体性の違いによるものである。例えば、「전하다 jeon-ha-da」の場合は「ある物を

相手に移してやる」のような「経路位置」と捉えられる意味と「ある事実を相手に伝える」「後代や当代に残す」のような抽象的な意味をも持つ。一方、「伝える」の場合は「ことばなどである内容をもった事柄を知らせる」をはじめ抽象的な意味のみを持っている。

5. 結論と今後の課題

韓国語の使役移動動詞112語とその日本語訳の関係は3つのタイプに纏められる。

- ・タイプ1 語彙化のパターンが同一で、意味層も同一な場合。
- ・タイプ2 語彙化のパターンは異なるが、意味層は同一な場合
- ・タイプ3 語彙化のパターンが異なり、意味層も異なる場合。

考察の結果タイプ1のものが80%でもっとも多い。特に意味層は「具体抽象」での一致が多い。タイプ2に属するものは少数で、一律な傾向があるとは言いがたい。タイプ3は主に韓国語では「移動経路」「具体抽象」に、日本語訳では「その他」「抽象」に分類される場合である。つまり、身体性の違いと捉えられる。

タイプ3に関しては、韓国人日本語学習者のその日本語訳に持つプロトタイプと習得過程を、身体性の違いという観点から考察する必要がある。例えば、「전하다jeon-ha-da-伝える」において、「伝える」にない身体性が「전하다jeon-ha-da」にあることが、学習者の「伝える」に持つプロトタイプ、習得過程にどのような影響を及ぼすかを検討することが考えられる。タイプ2に関しては、一律な傾向は見られなかったものの、語彙化のパターンの違いとプロトタイプとの関係からの考察が考えられる。タイプ1の意味層が「具体抽象」のものが多かったことから、典型的な意味が多数ある可能性を考える必要がある。Kellerman(1979)も学習者の考える典型度の高い意味が複数あることを示しており、鈴木(2003)も理論的に、プロトタイプは「具体性の強い意味」と「他の意味との繋がりが多い意味」の二つの種類が考えられると述べている。身体性の観点からは、身体経験に動機付けられたメタファーによる意味の典型さがどのくらいであるかも検討対象である。例えば、「던지다deon-ji-da-投げる」においては、「던지다deon-ji-da」の持つ複数の意味の中でどの意味が典型的と判断され、「投げる」の習得に関わってくるかを考察し、「던지다deon-ji-da」のプロトタイプとなる意味の特徴を明らかにすることが考えられる。

参考文献

- 何志明(2010)『現代日本語における複合動詞の組み合わせ』笠間書院。
- Kellerman, E. (1979). "Transfer and non-transfer: Where we are now". *Studies in Second Language Acquisition*, 1, pp. 37-57.
- 金祉諤(2012)「日本語多義動詞のプロトタイプ形成の影響要因に関する研究: 韓国人学習者の場合」『文化』76, pp. 74-93.
- 北原保雄(編)(2002)『明鏡国語辞典』大修館書店。
- Lakoff, G. & Johnson, M. (1999) *Philosophy in the flesh: The embodied mind and its challenge to western thought*. New York: Basic Books.
- 松田文子(2000)「日本語学習者による語彙習得」『世界の日本語教育』10, pp. 73-89.
- 鍋島弘治朗(2008)「身体性: 認知意味論との関連から」『月刊言語』37(5), pp. 48-53.
- 鍋島弘治朗(2011)『日本語のメタファー』くろしお出版。
- Nam, S. (2003). "Lexical semantic structures and argument alternations of movement verbs in Korean". *Language Research*, 39(1), pp. 111-145.
- 宣眠貞(2012)「Verb-Framed Languageから見た日本語・韓国語の複合動詞の違い」『日本認知言語学会第13回大会 CONFERENCE HANDBOOK』pp. 171-174.
- 菅谷奈津恵(2004)「プロトタイプ理論と第二言語としての日本語の習得研究」『第二言語としての日本語の習得研究』7, 凡人社, pp. 121-140.
- 鈴木智美(2003)「多義語の意味のネットワーク構造における心理的なプロトタイプ度の高さの位置付け: 多義語「ツク」(付・着・就・即・憑・点)のネットワーク構造を通して」『日本語教育』116, pp. 59-68.
- Talmy, L. (2000a). *Concept structuring systems*. London: MIT press.
- Talmy, L. (2000b). *Typology and process in concept structuring*. London: MIT press.
- 田中茂範・松本曜(1997)『空間と移動の表現』研究社出版。
- 安田吉実・孫洛範・李淑子・箕輪吉次(2006)『에센스【ESSENCE】韓日辞典』民衆書林。
- DAUM 国語辞典<<http://dic.daum.net/index.do?dic=kor>> 2012年11月～2013年1月閲覧。
- DAUM 日本語辞典<<http://dic.daum.net/index.do?dic=jp>> 2012年11月～2013年1月閲覧。
- NAVER 国語辞典<<http://krdic.naver.com/>> 2012年11月～2013年1月閲覧。
- NAVER 日本語辞典<<http://jpdic.naver.com/>> 2012年11月～2013年1月閲覧。
- WORDNET<<http://www.wordnet.co.kr>> 2012年11月～2013年1月閲覧。